

島根原子力発電所の温排水に関する調査

(島根原子力発電所温排水影響調査)

三浦常廣

1. 研究の目的

島根原子力発電所の運転にともなう温排水が周辺海域に及ぼす影響を調査する。

本年は、原子炉の稼働に伴う温排水の放出はなかったが、バックグラウンドの海水温や生物相の変化を把握するため、沖合定線観測、大型海藻調査、イワノリ調査、潮間帯生物調査の4調査を行った。

2. 研究方法

調査は沖合定線観測を第1～4-四半期、大型海藻調査を第1・3-四半期、イワノリ調査を第3・4-四半期、潮間帯生物調査を第1・2-四半期に行った。水温観測は原子力発電所沖合域に設けた34定点で行い、添付資料に観測結果を示した。

3. 研究結果

(1) 沖合定線観測

1・2号機は定期点検により、3号機は建設中でいずれも原子炉の稼働に伴う温排水の放出は無く、温排水に起因する水温の上昇域は見られ

なかった。

水色は3～6の範囲であった。

(2) 大型海藻調査

第1-四半期は、クロメ、ワカメ、モク類、有節石灰藻が主体であった。1号機放水口付近の定点では、平成22年3月31日以降定期点検等により原子炉の稼働にともなう温排水が放出されていないため、クロメ等の大型海藻の回復が見られた。

第3-四半期は、海象に恵まれず欠測した。

(3) イワノリ調査

観察されたノリ類はマルバアマノリ、オニアマノリの2種であった。温排水口付近とその他地点で明瞭な差は見られなかった。

本年は1月からノリ類の枯死がみられ、2月の調査では全定点で枯死していたため、3月の調査は欠測した。

(4) 潮間帯生物調査

藻類は、2回の調査で緑藻3種、褐藻物13種、紅藻物7種の計23種が観察された。動物は、2回の調査で巻貝類15種、二枚貝類2種、その他5種の計22種が観察された。